令和５年度学校経営総括

南丹市立園部小学校

学校関係者評価

①コロナが5類に移行する中、学校行事等を再検討し、児童の育ちにつながるよう創意・工夫をして実施することができ児童の満足感や充実感を高めることができた。
②登下校の安全対策を中心に熟議を重ね、保護者・地域住民等に積極的に働きかけ地域の見守り活動を更に前進させることができた。引き続き安全対策の強化を図っていきたい。
③地域人材等を積極的に活用した授業構想を計画的に実践し、地域を大切にする心やキャリア教育の充実を図る取組等を推進することができた。

保護者アンケート結果

①友達と仲良く、元気に楽しい学校生活を送ってほしい。
②しっかり学び、心のやさしい子どもに育ってほしい。
③心身ともに健康な明るくたくましい子どもに育ってほしい。

園部中学校ブロック教育目標

ふるさとを愛し、夢をかなえるために、
知力・心力・体力の向上を目指す
そのべっ子の育成

目指す学校像

個が輝く学校

目指す児童像

考える子　やさしい子　努力する子　たくましい子

第三者評価

①一人一人が大切にされる取組が工夫され実践化されていると考える。これに加えアフターコロナにおける行事についても形式的な取組とならないようタイミングを逃さず、一人一人の児童につけたい力を十分検討し直し実施したことは目指す児童像の実現のための素晴らしい手立てである。
②地域とともにある学校作りを積極的に推進されている。学校運営協議会や熟議を積極的に開催されていることも聞いています。地域を愛する子どもたちの教育を中学校でも引き継ぎたいと思う。
③いじめ問題が確認された後に根気強く丁寧に指導することで、100％解消に繋がったと思う。組織的な対応もできていると感じる。

	学校経営の重点	成果	評価	課題	改善策
人権教育	・一人一人の児童の人権が大切にされ、個々の自尊感情を高める学級経営の創造する。 （「学校が楽しい」と答える児童100%）	全学年が全て肯定的な回答を示しており、児童全体の90%を占める。学級担任は、、学級経営に力を注ぎ、学年団は、チームとして学年経営を構築している。一人一人を大切にする人権教育を基盤として取り組むことができた。	A	「楽しくない」と回答する児童が10%ある。否定的な回答をした児童の中には、友人との人間関係等に理由があり、一人一人の児童理解を更に深めていくことが必要である。	「学校が楽しくない」という児童個々の思いを担任等がよく聴き、原因を確認しながら解決を図る。また、家庭と連携を密に取りながら人権教育を基盤として継続的に指導・支援を行っていくことが大切である。
生徒指導	・いじめ問題については個別面談等による徹底した実態把握を行い、未然防止・早期発見・早期解決・再発防止の徹底を図る。 （面談等による聞き取りやアンケート等による実態把握を徹底して行い、いじめ解消率100%）	1学期のいじめ認知件数13件の事象については、学級担任を中心に校内体制を組織し、指導を行った。その結果、3ヶ月以上が経過した現在、事象に継続性は認められず、いじめ行為自体が止んでおり、100 %解消している。2学期のいじめ認知件数16件の事象については、現在継続して指導・経過観察を行っている。	A	いじめを未然防止することが最も重要である。いじめを絶対に許さない児童・教職員・学級・学年・学校の風土を構築すること。また、いじめを絶対に見逃さない教職員の力量を高めることが必要である。	支持的で温かい風土の学級経営を基盤に教育活動を進めるとともに、一人一人の児童の言動や様子を教職員全員が鋭敏に把握し、共有して日常的かつ継続的に指導・支援を行っていくことが大切である。 引き続き、ケースリスト（不登校対応含む）を有効活用していく。
授業改善	・算数科を基軸とした授業改善を推進する。 （「常に自身の考えをもち、相互に学び合う授業が楽しい」と答える児童90%以上 「タブレット端末の有効活用ができた」と答える教員80%以上 「授業力が向上した」と答える教員80%以上）	児童アンケートでは、89%の児童が肯定的に回答しているが目標値には届かなかった。教員は、要請訪問等、研修を通して改善策を意識して授業を実践するようになったと回答した教員は79%あった。ICTミニ研修会等により、すらら等、タブレット端末を有効活用した授業を実践することができた。（93%）	B	アフターコロナにより、授業研究会のもち方等を工夫し実施することができたが、更に工夫・改善していかなければならない。厳しい学力実態である。特に算数科が課題であり、全学年の客観的な学力実態を把握し、具体的な対策を講じていかなければならない。	算数科を基軸教科として授業改善を更に推進すると共に、学力の実態を的確に把握し、学力の向上に向けた取組を計画的・継続的に進めていくことが重要である。教育局・市教育委員会の要請訪問等を活用し、校内研修を更に充実させることが大切である。
地域連携	・「地域とともにある学校づくり」を推進する。 （見守り活動やゲストティーチャー・親子道徳等の取組を通して、「地域と共に歩む学校づくりが前進した」と答える保護者・教職員80%以上）	保護者アンケートでは、85.4%の保護者が、「地域とともにある学校づくり」が実践できていると回答している。本年度も児童の安全を中心に熟議を重ね、活動を推進した。また、各学年の授業には、地域を愛する心の育成やキャリア教育の視点を踏まえた積極的な地域人材等の活用ができた。	B	「地域とともにある学校づくり」について「よくわからない」と回答している保護者が7.5%ある。保護者、地域への一層の啓発を継続して行っていく必要がある。	児童の安全を中心にCSの活動は更に大きく前進した。今後も積極的に広報等を行っていきたい。わが町を愛する心と自身の将来を展望できる授業構想を地域人材等の活用を含めて、学校・家庭・地域が一体となって実践化を推進していきたい。
危機管理	・「アフターコロナ」を想定して教育計画を再構築する。 （「学校行事等、児童の実態と育ちに即した教育活動を実施することができた」と答える保護者・教職員90%以上）	保護者アンケート「学校は一人一人が輝く学校行事を工夫している」の項目では、91.5%の肯定的な回答をいただいている。コロナ5類移行後、単に行事等の内容を元に戻すのではなく、児童に付けたい力等を十分に検討して実施することができた。	A	コロナ5類移行後の学校行事を含む教育活動を再考し、本年度の総括を基に教育内容・実施時期等を踏まえた新しい教育計画を作成する必要がある。	児童の実態と育ちに立ち返り、今、児童に付けなければならない力を明確にし、教育活動を創造することが重要である。その際、学校運営協議会・PTA等との連携を大切にし、新しい教育計画を作成していきたい。

※達成度は、「A・B・C・D」の４段階（A：十分な成果が見られた、B：成果が見られた、C：やや課題が見られる、D：課題が大きい）

今年度の成果

①各学級を基盤に、児童一人一人を大切にする人権教育を実践することができた。
②授業研究会を計画的に実施し、学力向上につながる授業改善を推進することができた。
③学校運営協議会の熟議・広報活動等を通して、児童の見守り活動を広げることができた。また、授業における地域人材等の活用を全学年で行うことができた。（キャリア教育の充実）
④タブレット端末を活用した授業を全学級で実践することができた。また、すららの導入等、更にICT機器の有効活用を推進することができた。

次年度の課題

①各学級を基盤に、児童一人一人を徹底して大切にする人権教育を一層推進する。
②授業改善の推進と学力向上の一体化を図る。
③GIGAスクール構想を更に推進し、ICT機器の有効活用と学校業務遂行に係る積極的な活用（効率化・省力化・集約化）を図る。
④学校運営協議会を中心に地域総がかりで児童を育成（見守り・地域人材の活用等）する取組を更に充実させる。